

令和元年度企画展

御風と屏風のある風景

(令和元年10月5日～12月1日)

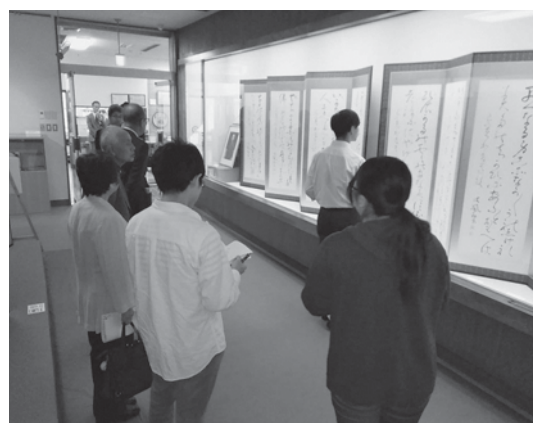
国指定重要文化財複製品
風神雷神図屏風、夏秋草図屏風を
特別展示

糸魚川市が誇る文人相馬御風は、その生涯を通じて約七〇〇首の短歌を創作し、良寛研究の第一人者として、良寛を世に広めました。

また、歌謡曲をはじめ、国民歌、社歌、団歌、新民謡、邦楽など550曲を超える歌を作詞したことで知られており、御風の「書」も校歌額、掛け軸、色紙、手紙、原稿など様々な形で数多く残っています。



尾形光琳筆「風神雷神図屏風」



相馬御風書屏風「良寛和尚遺詠」

今回の企画展では、当館が所蔵する御風の書の中から、現代の生活ではほとんど見ることはない「屏風」をテーマにして開催しました。

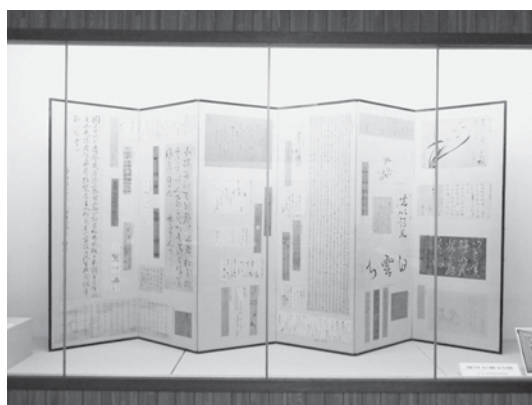
初日のオープニングセレモニーには、御風会高瀬衛会長、糸魚川市議会中村実議長、糸魚川市議会笠原幸江総務文教常任委員長、糸魚川市教育委員会磯野茂教育次長が出席。磯野教育次長の挨拶で始まり、その後、ゆるキャラの「御風さん」も加わり、5名でテーパーカットが行われました。内覧会では、市民や報道関係者、学芸員研修の学生の皆さんが熱心に見学されました。

展示した屏風は、金縁で装飾された豪華なものから、お気に入りの記事や手紙などを貼った手軽な貼り交ぜまで、5種類7点。屏風が持つ迫力、美しさはいうまでもありませんが、屏風

が風を屏（おお）う家具として使用されていた当時の部屋の暮らしを連想していただけだと、御風が愛用したタバタ茶の茶碗、鏡台などの調度品も併せて10点展示しました。

さらに、天皇陛下御即位記念「第34回国民文化祭・にいがた2019」「第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会」の特別連携事業として、東京国立博物館が所蔵する国指定重要文化財複製品、尾形光琳筆「風神雷神図屏風」、酒井抱一筆「夏秋草図屏風」(二曲一雙表裏)をお借りして、1か月の期間限定で特別展示を行いました。

来館者に実施したアンケートでは、「大好きな風神雷神を身近で見られて幸せ。」「複製品でも見応えがあつて、子供らに見せたいと思った。」など、う



良寛及び親兄弟、知人筆跡貼り交ぜ屏風

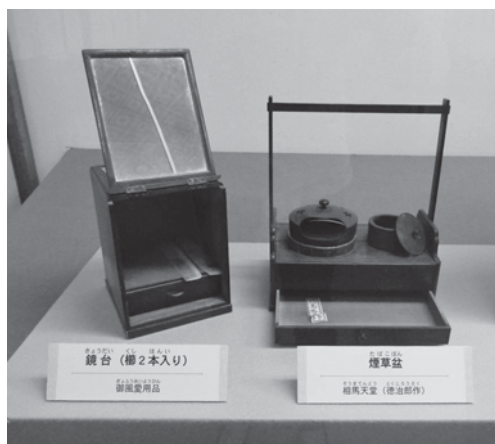
れしい感想をいただきました。

その反面、「他の屏風（風神雷神図以外）もすばらしかったが、難しかった。」「展示の文字が小さく、館内が薄暗いので、十分見られなかった。」などの意見もありました。

会期中の来場者数は500名まであと一歩でしたが、前年比15%の増という結果でした。

今回の企画展には、更なる来場者数アップに向けて、いただいた様々なご意見を参考に、展示の内容を検討していきたいと思っています。

煙草盆 相馬天堂作（御風父徳治郎）



鏡台(櫛二本入)御風愛用品

